中国語母語話者による舌打ち音に対する日本人大学生の評価

○野口智草¹・宇津木成介²

(1大阪国際大学・2奈良学園大学)

キーワード: 非言語コミュニケーション・舌打ち・中国語母語話者

Japanese students' evaluation on clicking sounds by Chinese speakers

Chigusa NOGUCHI¹ and Narisuke Utsuki²

(1Osaka International Univ., 2Naragaku Univ.)

Key Words: Nonverbal communication, clicking, Chinese speakers

目 的

中国人留学生は日本における留学生の6割を超える。その中国人留学生が日本人とのコミュニケーションにおいて遭遇し得る非言語的なコミュニケーションギャップの1つに舌打ち音の意味、用法の違いがある。中国語母語話者にとって、舌打ち音は、美味、賞賛、感嘆・驚き、困惑・不満、満足など、多様な意味を持つ(于, 2007)。一方、現代の日本語母語話者にとっての舌打ち音は、そのほとんどがネガティブな意味合いを持ち、相手に不快感を与えるとの認識のもとで使用されている。

本研究では舌打ち音の意味や役割の違いに着目し、中国語母語話者が発する舌打ち音の含まれた音声に対して、日本人聴取者がどのような感情的評価を行うかを調べた。

方 法

刺激

中国語の台詞6通りの朗読音声。ネガティブな意味合いを持つ文章(台詞1, 2)、ニュートラルな意味合いを持つ文章(3, 4)、ポジティブな意味合いを持つ文章(5, 6)の6通り。音声刺激として、指定箇所において舌打ちを含むものと、含まないものを録音した。

協力者

演技や声優などの経験を持つ来日3年未満の中国人留学生男女各6名に感情を込めた発話を依頼し、これを録音した。発話者とは別の中国人留学生18名に聴取と評価を依頼した。演技と、込められた感情について、評価の高かった男女2名ずつの音声を以下の聴取実験で用いた。

聴取実験

2014年1月に関西地区の私立大学にて、任意で聴取実験を行った。上記の各音声を聴取させ、回答用紙を用いて評価させた。回答に不備のあった者と中国人留学生(10名)を除いた97名を有効データとして扱った。実験は2群にわけて行った。各群に、男女1名ずつの異なった話者の音声を呈示した。

実験参加者

実験群A: 57名(男性26名、女性31名)。19歳~22歳で平均20.61歳(S.D.=0.86)であった。実験群B: 40名(男性15名、女性25名)。18~22歳で平均19.55歳(S.D.=1.06)であった。このうち6名は両群に重複し実験に参加した。参加者97名のうち、中国語(台湾)での滞在経験のある者はおらず、中国語にもっとも堪能な者は、簡単な日常会話ができると答えた2名のみであった。

質問紙

実験参加者は音声を1文聴取するごとに4つの質問に回答した。質問1では、音声を聴取した際に感じる気持ちを快、不快を軸とした3段階評価で尋ねた。質問2では、音声に含まれる感情について、ポジティブ、ネガティブを軸とした5段階評価で尋ねた。質問3では、音声から読み取れる感情について尋ねた。質問4では、質問3で回答した感情の強弱を尋ねた。

結 果

両群それぞれにおいて、話者の性、舌打ち音の有無、台詞による3要因分散分析を行った。ここでは両群に共通して見られた結果について述べる。また、実験群によって聴取した話者が異なるため、話者の効果が関係する項目については記述を省略する。

両群において、舌打ち音を伴う発話は伴わない発話と比較して不快度が高く、(実験群A:F(1, 56)=74.58, p<.01; 実験群B:F(1, 39)=5.07, p<.05)、また、そこに含まれる感情が強いと評価された(A:F(1, 56)=43.75, p<.01; B:F(1, 39)=10.45, p<.01)。

台詞による主効果は質問1, 2, 4に共通して見られた。音声聴取時の快不快度では、台詞1が他と比べ不快度が高かった。また台詞2は他と比較するとポジティブに評価されていた。感情表出の強度に関しては、ニュートラルである台詞3, 4が他に比べ低い値となった。

舌打ちと台詞の交互作用は感情表出の強度において確認された(A:F(5, 52)=9.83, p<.01; B: F(5, 35)=4.65, p<.01)。単純主効果について検定した結果、実験群Aでは台詞2, 5, 6において、実験群Bでは台詞1, 2, 6において、舌打ち音伴う発話のほうに有意に強い感情表出であると判断された。

質問3における3人以上の回答および二項検定の結果を示す(Table 1)。台詞3, 5, 6では、舌打ち音を伴うことで最頻カテゴリーが移行した。また、怒りの回答数が増加し、驚きの回答数が減少する傾向が見られた。

Table 1 朗読音声から読み取られた感情

台詞	舌打ち	喜び	悲しみ	怒り	嫌悪	驚き	恐怖	平常心	無感情	恥	冷静
1	無	28	10	87	38	20	2	3	-	-	-
	有	7	3	129	35	13	1	0	-	-	-
2	無	42	15	48	39	31	3	3	5	3	-
	有	50	8	55	42	31	0	-	-	-	-
3	無	22	64	14	41	6	22	5	8	-	-
	有	16	40	28	74	9	10	5	5	-	-
4	無	12	73	16	30	23	19	7	5	-	4
	有	10	70	25	48	5	18	3	-	-	-
5	無	46	12	37	32	54	5	3	-	-	-
	有	48	34	32	22	31	17	-	-	-	-
6	無	33	14	31	55	42	11	3	-	-	-
	有	30	5	100	29	23	1	-	-	-	-

* p<.05 ** p<.01

考 察

中国語朗読音声における舌打ち音は、日本人聴取者に対してネガティブに作用した。舌打ち音を伴うことで、日本人聴取者はより不快に感じ、強い感情を表していると感じた。また、音声から読み取られる感情も変化した。今後、中国人聴取者を用いた同様の実験を行い、比較検討を行う必要がある。

引用文献

于 康 (2007). 中国語母語話者の「舌打ち」のコミュニケーション機能について エクス言語文化論文集, 5, 109-134.